研究推進部　2020 年度

【めざす子ども像】

自ら学び、ともに高め合い、想像力のある子ども

①校内研究（算数）	②各種教職員研	③学力向上	④校区としての取り組み
【校内研究主題】 主体的に学び、共に高め合う算数学習の研究	【目標】 児童の資質・能力の育成につながる教職員の指導力向上を図る。	【目標】 児童の基礎・基本の定着と実態に合わせた応用力の育成を図る。	【目標】 1 中校区で授業の形や教師の声かけの仕方，児童の学び方を統一していく。

①校内研究（研究教科：算数）

研究主題

主体的に学び、共に高め合う算数学習の研究

今年度の重点目標

対話することを通して、子どもが伸びようとする授業

“子どもが伸びようとする”…子どもは本来、一人ひとりが意欲を持ち、「よくなりたい」「分かりたい」「学びたい」という欲求を持っている。その「伸びよう」とする意欲を、授業の中の対話を通して引き出すことを目標としていく。

主体的に学び、共に高め合う算数学習

↑

子どもが伸びようとする授業

対話

・子どもが教材や友達と主体的に関わるために
・ペア・グループ学習の中で数学的な見方・考え方が広がるために
・子どものノートを深めるために
・その子の変化をクラスのみんなが共有していくために　　etc…

↑

基盤

・学習規律　（はあとの聞き方・話し方）・学級経営（認め合える雰囲気 etc…）
・数学的な見方・考え方（算数用語・図，グラフ，表…）

授業の形　問題解決型の授業を基本とし，児童の学びに合わせて行う。

【問題解決型】
課題をつかむ→見通す→自力解決→練り上げる→まとめ・適応題→振り返り

1年間の取り組み方

・年２回　校内研究授業を行う。
・各部会・各学年・学級で授業を考え、話し合い、1年間実践を積み上げていく。
・長期的な手立てと短期的な手立てを指導案の教材観・指導観に明記する
・研究の報告は,「指導案」「成果と課題」を研究部から提示される形式で記入し，年度末に各学級1部提出する。
・単元については，学年で揃えてもよいし，学級ごとに違っていてもよい。

②各種教職員研修

目標

児童の資質・能力の育成につながる教職員の指導力向上を図る。

〇初任者研修

・初任者研担当者を中心として、年間を通じて、初任者の資質・能力の向上を図るための研修を行う。
初任者研担当者は教務主任と連携して、初任者の研究授業の日程及び初任者に関わる校内研修の日程を調整する。
・初任者研究授業は年3回行う。（その中で1回は討議会付きで、2学期までに行う。）
・初任者研究授業における教材研究は研究推進部全体で協力する。

〇校内現職実技研修・校内授業公開

・職員を対象として研修したい内容のアンケートを行い、その内容に沿った授業公開・実技研修を本校の職　員を講師として行う。（自由参加とし、年に複数回、放課後に1時間程行う。）
・年2回程度、校内授業公開週間を設定し、授業や学級経営のスキルアップをめざす。公開者は上記アンケートなどをもとにして、研究推進部にて決定する。

〇夏季研修・夏季実技研修

・アンケートをもとにして、人権部と連携し、道徳教育、児童支援、教科研究などの専門の講師の講義などを実施する。
・実技教科の指導方法など、ニーズに合わせた研修を実施する。
・研究推進部より研究主題、研究の柱に対しての、各部会での成果、反省を示し、全体で討議を行い、2学期以降に向けての課題と方向性を決定する。

③学力向上

目標

児童の基礎・基本の定着と実態に合わせた応用力の育成を図る。

〇全国学力テスト・寝屋川市到達度調査分析・取り組み　　(未定)

・年間３回の学力到達度調査と分析を行う。

第１回　　全国学力テスト（6 年生）
　　寝屋川市到達度調査（2～5 年生）

第１回分析　　→分析を基に２学期の取り組みを考え、実施する。
（7 月～8 月）

・当該学年の苦手範囲を補う取り組みを計画し、中間到達度調査までの間に実施する。

第２回　　中間到達度調査・分析（児童の変容の確認）
（12 月中旬）

第３回　　最終到達度調査・分析
（3 月）　　→当該学年の分析結果を次年度へ引き継ぐ

〇放課後学習

・1～3 年生の個別の支援が必要な児童及び参加を希望する児童を対象する。
・内容は、補充のプリント（各学年で用意）または個別の課題とする。
・実施日は学年、行事等を考慮して設定する。
・高学年は学級担任の裁量で行う。

〇習熟度別分割学習（４・５・６年算数）

・学年の学習状況、支援体制に応じて、少人数、Ｔ・Ｔ授業を実施する。

④一中校区としての取り組み

９年間を見通した教育の実現に向け，校区で次の３つの取り組みを行う。

〇あたたかな聞き方・話し方

「はあとの聞き方・話し方」に取り組む。

【ねらい】

子どもたちが自分たちで学ぶ姿勢について考え，意識する機会を作る。

【取り組み方】

① 各学年，年度初めに子どもと一緒に学び方について考える時間をとる。
② 夏季研で１学期の取り組みを振り返る。
各学年のつながりも意識して２学期につなげていく。
③ 必要に応じて，子どもと２学期以降の目標を考える。
１年通して取り組む中で，目標を見直していく。

【目標のつくり方】

・声の大きさ

・体の向き

・理由や考えの伝え方

・話し合い方　　などの視点で子どもたちの考えを引き出していく。

子どもからの意見が不十分な場合，例を示して意見を引き出したり，授業中に望ましい児童の反応が見られた場合，ほめて価値づけたりすることで，より高度な目標を作っていく。

教師が，子どもの発言に対してアンテナを張り，最終的につけたい力を意識していく。

〇1 時間の授業の流れ

児童が見通しを持つことで、安心して授業を受けられるように、一時間の授業の流れが児童に伝わるようにする。(例)授業の流れを黒板に提示，毎授業の流れを固定化する

〇魔法の言葉

教師が児童に声掛けをする際に，

どうする　どうして　なぜ　わけは　だから　どうしたい　どういうこと　という言葉を使うように意識をする。

年間計画

4 月	研究推進部会 （主題の確認、研究の進め方など） 校内研究全大会	
5 月	研究推進部会 （指導案形式、討議会の進め方など）	全国学力テスト・市到達度調査 算数・国語アンケート実施（校内研究） ※1 年生は国語アンケートと同時に行う
6 月	研究推進部会 第一中学校公開授業（9 日）	
7 月	研究推進部会 夏季研・夏季実技研（29 日、30 日、31 日） 校内研究中間発表	学テ・到達度調査分析・取り組み（学力向上）
8 月	一中校区夏季研 教育フォーラム	
9 月	研究推進部会	
10 月	研究推進部会 授業研（14 日）※東小参観 校区研修会（8，9 日）※高木先生 東小学校公開授業（30 日）	
11 月	研究推進部会	
12 月	研究推進部会	中間到達度調査・分析・取り組み（学力向上）
1 月	研究推進部会 授業研（26 日）	
2 月	研究推進部会 校区研修会（4 日又は 5 日）※高木先生	算数・国語アンケート実施
3 月	研究推進部会 （次年度の主題・仮説案、決定）	最終到達度調査・分析（次年度へ引き継ぐ）